



老
去
清
子
并
筒
奈
戸
心
丸



巻首

幸坂屋

老松

曲出三拍子
佐中流
居

かきこにほる海はるしのきく
たきくらしきくかきく
かきくらしきくかきく
かきくらしきくかきく
かきくらしきくかきく

老松

えとどがぞおまゝる花さるりぞ
やすらひの梅のさかきあ
らん物乃花さるりぞ
よきがらむ人よらんのさ
の 三句 一がらむさかきあ
さゆぞ 早 ずならんさかきあ

の本としそ 二 かつらしお流る

秋 早 かくら 早 かくら 早 かくら
やうさ 早 けり 早 も 早 ほ 早 ぬ 早 い 早 ぶ 早 け 早 り 早 今
林 早 本 早 と 早 あり 早 る 早 け 早 り 早 ぬ 早 い 早 ぶ 早 け 早 り 早 今
と 早 す 早 け 早 り 早 ぬ 早 い 早 ぶ 早 け 早 り 早 今

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

早

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

いづれかたのきりては

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

清純

曲出ノ程ノ陰
位早
左

和 琴
 八重の花はらけらのあま八重
 のあかりらるるしかなるをい
 やうらん 是はな中おのうの
 酒よほくあわの三つとよ
 まくぬをのまの清い

てかほりてきりてきりてきりて
ひねりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて

てかほりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて

てかほりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて
きりてきりてきりてきりて

一三二

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

一三三

してよきのひくよのあはれなりくづそ

ふいふはよきしんやむよきまていづら

わんあしづくくまあられぬ言原油

るくまあられくはま^{日暮}あて

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

あまのつらさしひぢがたかくゆのあはれ

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately seven lines of text, starting with a large initial character that resembles '海' (sea/ocean). The script is fluid and characteristic of historical Japanese calligraphy.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately seven lines of text, starting with a large initial character that resembles '海' (sea/ocean). The script is fluid and characteristic of historical Japanese calligraphy.

しつらなりつるのしつらなりつる
色もくひのさかきもたつはく
多し何の色もさかきもたつはく
和音のしつらなりつるのしつらなりつる
いねいねいねいねいねいねいね
のひねいねいねいねいねいねいね

いねいねいねいねいねいねいね
いねいねいねいねいねいねいね
いねいねいねいねいねいねいね
いねいねいねいねいねいねいね
いねいねいねいねいねいねいね
いねいねいねいねいねいねいね
いねいねいねいねいねいねいね
いねいねいねいねいねいねいね

音尺

二二九
わが心はなほ今もやまらん
二二九
たづねあはれしもの西の月
二二九
よもやあらば我れもかたじけなく
二二九
ゆきよき来し人の心はなほ
二二九
よもやあらば心はなほ
二二九
あはれしもの西の月
二二九
よもやあらば我れもかたじけなく
二二九
ゆきよき来し人の心はなほ

二二九
あはれしもの西の月
二二九
よもやあらば心はなほ
二二九
あはれしもの西の月
二二九
よもやあらば心はなほ
二二九
あはれしもの西の月
二二九
よもやあらば心はなほ
二二九
あはれしもの西の月
二二九
よもやあらば心はなほ
二二九
あはれしもの西の月
二二九
よもやあらば心はなほ

情

十四終

いさよふたつをいひのけいあ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

いさよふたつをいひのけいあ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

牛高

あはれなる御心

を御覧なす

はたしめ給ふ

御心

を御覧なす

はたしめ給ふ

御心

を御覧なす

はたしめ給ふ

御心

を御覧なす

はたしめ給ふ

井高

下白
 やき我あしあつしわ
 いりさうさほけり花の文あそに
 ほひのりくわらわれあのみか
 のくわあきあられ松風やも
 せうじれあしあそてさあふさ
 馬にやあしあひのさう

かた戸

曲出ニノ拍子
位附上六言五輕

第ニ
 美のみなしれいあぢく
 女とれさうりかかん
 本のと廊よりはあしあぢく
 らんご梅らんのあんらんくはり
 しんせんあしあひのさう

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الحمد لله الذي هدانا لهذا
الذي كنا لنهتدي لولا
أن هدانا الله لكان
لنا كفرا بآياته مما
نحن لن نشكركم له
والحمد لله رب العالمين

الحمد لله الذي هدانا لهذا
الذي كنا لنهتدي لولا
أن هدانا الله لكان
لنا كفرا بآياته مما
نحن لن نشكركم له
والحمد لله رب العالمين

ありとすくなくしらけの松
 うらやましき心とひねり
 舞あそびの海とちりて緑のひら
 よもくとすのまにちりてかた
 しらりてくちくちくちのま
 かりぬ成仏の身とて成ふま

山姥

曲出一拍子トル
 佐早強初之打切舞

舞
 佛の心とちりてかた
 かしよとすのまにちりてかた
 先にゆきゆきゆきゆき
 とくかたかたかたかた

山姥

2
まじりてのしるしをみれば
るに月のおもひからひきりか
しうるをいふはさかしく
はるきよきあはれなり
たりともひくしにさか
るのとわりのわらふが根元と
かた

くどくたれあのにし
そい何とほいもあはれ
まー海ははらの百もあはれ
まがもい好かして
ひきの流中をやんま
うんしああらんは
ま

し海にのりあはるのしるす

行をわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

あはれにわすれぬとてしるす

山

山

白 菊
のしきやうせんそくたわりのあは
るにひかりあふるあはれあはれ
くせん ま おまに我としおの
あたまをく海りくあまを水
と 同下 まはらふあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく

あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく
あまをくあまをく海りくあまをく

巻

あつらひ長らうらなうしあ
トの山姥がゆめたりするそらうさ
わりの 地あからりいあめれき
めがれはなもたもれえんそら

あつらひ長らうらなうしあ
トの山姥がゆめたりするそらうさ
わりの 地あからりいあめれき
めがれはなもたもれえんそら

